

中学生のオリンピック教育を通じた価値意識の変容

—OVEP 日本版「フェアプレー」を活用して—

村瀬 茜（筑波大学大学院）

1. 目的

本研究では、中学生を対象に、OVEP 日本版「フェアプレー」を用いた授業を通して、生徒のオリンピックの価値意識がどのように変容するかを明らかにし、教育現場でどのように生かすことができるかを検討することを目的とした。

2. 研究方法

- 1) 対象：東京都私立中高一貫校の中学校1年生 167人（5クラス）と担任教師5人
- 2) 研究の手続き：東京2020組織委員会が作成したOVEP日本版「フェアプレー」の教師用指導案を活用した、道徳の授業を1時間実施した。授業の前後に、オリンピックの価値意識に関する質問紙調査、授業後に授業に関する質問紙調査を実施した。

3. 結果と考察

- 1) 生徒の価値意識の変容について

オリピズム等の12項目に対する重要度を問う質問では、「他者への敬意」と「フェアプレー」に関する価値意識が肯定的に変容した。また、「オリンピックで大切であると思うこと」の自由記述では、授業前は、「交流」、「仲良くなる」、「平和」が上位の回答であったが、授業後は、「尊重」、「公平」、「ルールを守る」が上位の回答であった。また、授業に関する質問の回答から、生徒は、本授業を通してフェアプレーを肯定的に捉えることができ、フェアプレーに対する理解が深まったことが明らかとなった。一方で授業後の記述から、実際に行動を起こすことの難しさに気づいたことが明らかとなった。生徒がこのような葛藤場面に出会ったとき、正しい選択をす

ることができるように、授業者は指導する必要がある。

- 2) 本研究の授業における教材の評価

各授業の分析から、授業者は提案されたモデル指導案に対して、生徒にとって身近な事例や発問や話し合いなどの活動を追加していた。さらに、授業者への質問紙調査の結果から、授業者によって本授業教材に対しての考えや、オリンピックに対する興味関心が異なることが示されたが、生徒の学びには大きな偏りが見られなかった。従って、授業の基礎が同じであれば、授業者がオリンピックに特別な関心を持っていなくても、授業のテーマに沿って授業を行うことで、ある一定の成果が得られることが示唆された。さらに、授業で取り扱う事例を、より生徒にとって身近に感じられるものに修正するなどして、更なる授業の検討が必要であると考えられる。

4. 結論

OVEP日本版「フェアプレー」を活用して授業を行ったところ、「他者への敬意」と「フェアプレー」に対する価値意識が肯定的に変容し、生徒の価値意識に肯定的な影響を与えることが明らかとなった。また、授業者がある程度教材に追加や修正を加えたとしても、授業の基礎が同じであれば、ある一定の成果を上げることができると示された。

5. 主な引用参考文献

- 1) 国際オリンピック委員会(2017)OVEP（オリピズムの本質的価値）
<https://www.joc.or.jp/olympism/ovep/pdf/ovep2017.pdf>（参照日2020年12月31日）